

(別紙5)

調査報告書

外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成20年3月7日
調査実施の時間	開始10 時 分 ～ 終了15 時 分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム郷の家 (福島県)
-------------------	-----------------------

評価調査員の氏名	氏 名 鹿島 丈夫 氏 名 熊谷まゆみ
事業所側対応者	職 名 管理者 氏 名 玉川 律子 ヒアリングを行った職員数 (2)人

※記入方法 ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 ※項目番号について ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 ※用語について ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。 (他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。
--

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年3月22日

【評価実施概要】

事業所番号	792300014
法人名	医療法人 正生会
事業所名	グループホーム 郷の家
所在地	福島県南会津郡下郷町塩生字夕原 1 3 1 3 - 1 (電 話) 0241 - 67 - 3013
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	福島県会津若松市東千石一丁目2-13
訪問調査日	平成20年3月7日

【情報提供票より】 (2 0 年 2 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 1 8 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 13人, 非常勤 2人,	常勤換算 5.

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	34,500円		その他の経費（月額）	円	
敷金	無				
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（30,000円）		有りの場合 償却の有無	有（退去時）	
食材料費	朝食	300円	昼食	300円	
	夕食	300円	おやつ	食事代に含む	
	または1日当たり円				

(4) 利用者の概要 (4 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護 1	3	要介護 2	8		
要介護 3	5	要介護 4	2		
要介護 5	0	要支援 2	0		
年齢	平均 86.1 歳	最低 75 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 正生会 佐藤医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

農村部に立地するグループホームで、利用者も職員も地域社会との関係は深い。穏やかで落ち着いた生活が営まれており、職員の前向きな努力が感じられる。まだ新しいグループホームであり、さらなる向上が期待される。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の評価で改善を求められた事項について、改善計画を立案し改善シートを作成し、改善に取り組んでいた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
重点項目②	職員全員で自己評価に取り組んでいた。サービス評価ガイドブックを活用し、求められる内容の理解が図られていた。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5)
重点項目③	運営に関して家族も含め発言が多く、議事録が作成され、報告がされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
重点項目④	面会の機会や電話で家族の意見を聞いている。運営協議会の委員となった家族は会議で意見を述べている。
	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	出掛けており、地域との関係も良好である。

2. 調 査 報 告 書

氏名 鹿島丈夫 / 同行調査員氏名 熊谷まゆみ

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で話し合い確認し、住み慣れた地域で安心した「なじみ」のある生活を支えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員全体で共有し、毎月の職員会議で理念の具体化を話し合い、毎月の目標が立てられていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の行事や町内の文化祭などに参加している。ボランティアも老人会や清掃の訪問がある。また、買い物も近隣のスーパーを気軽に利用し地域の人たちとは日常的な交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価ガイドブックを活用し、各職員が自己評価を行い、それを持ち寄り話し合っている。外部評価で指摘された事項は改善計画が立案され、改善シートを基に着実に改善に努めていた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で定期的に会議が開催され、会議の内容、結果がしっかり記録され報告もなされていた。		
6	9		運営推進会議の議事録を持参し内容を報告している。また介護保険の更新手続きの際などにも情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	一人ひとりの毎日の記録をまとめた「生活の様子」と預かり金の記録は毎月定期的に家族に報告されていた。ホームの様子や行事などを紹介する「郷の家便り」も季刊で発行され家族に送付されていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは、面会のときや電話で意見、要望を聞いている。運営推進会議にも家族代表が参加し活発な意見交換が行なわれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、各ユニットの職員は固定化し顔なじみの職員によるケアに心がけており、居間にはその日の勤務者の顔写真が掲示されていた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望する外部研修会に参加している。研修会の報告書を職員で回覧し共有している。事業所内でも職員が企画し2～3ヶ月に1回程度勉強会を開いている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加した折に、他のグループホーム職員と情報交換をしているが、日常的な交流はない。	○	グループホームの連絡組織などを活用し、日常的に情報交換したり、相互に交流し、他のグループホームの実践から学んだり、自分達の実践のすぐれている面を再認識することも重要です。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段から人生の先輩として利用者からアドバイスを受ける場面も多い。また、畑仕事や花壇など利用者が主導的に活動できる機会を大事にしていた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の思いに応えるよう努力し、職員で対応が困難な場合は、家族の協力を得て思いの実現に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日々の関わり、面会時の家族との関わりから、思いや意見を聞いて介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	週1回のフロア会議で話し合い、状況の変化に応じた介護計画の検討、見直しもしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望する医療機関を受診できるよう協力している。家族の付き添いで受診する際は情報の提供を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度の利用者を、医師や家族と相談し、医師の往診を受け、居室で点滴をし、グループホームでの生活を支えたケースがあった。職員はその都度話し合い、利用者が重度化しても支える実践を積み重ねている。	○	重度の利用者を支えた経験を生かし、重度化し看取りの必要が生じた場合の対応指針を作成することを期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	生活の場面を見ていると、職員はさりげなく介護しており、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言動はなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の好みの過ごし方を把握し支援している。希望を表現できない利用者には家族から情報を得、希望に添えるような支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1階のユニットでは、一つのテーブルを囲み、2階のユニット三つのテーブルに分かれて食事をしていた。それぞれの利用者に合わせた食事の工夫の努力を感じた。		食事を楽しんでいる雰囲気が弱いように感じられた。何がそう感じさせるのか、検討してみてもうどうでしょうか。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間も希望があれば入浴が可能であり、入浴を楽しめる支援に努力していた。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	まだ雪の残る時期の調査だったので、畑や花壇など外の活動ができないためか、退屈そうな感じも受けたが、夕食の買出しに同行する利用者、近所のスーパーに買い物に出掛ける利用者もいて、役割や楽しみを持てる暮らしがあった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	自然な感じで近所に出掛けていた。買出しの際ドライブを兼ねたり、外へ出掛ける支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵はかかっていなかった。利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなくさりげなく声をかけたり、一緒についていくなどしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回入居者と避難訓練を実施している。近隣や地域消防団とも関係は密接のようであった。避難経路確保の除雪も行なわれていた。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎食記録している。職員に栄養士がおり、栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は清潔で落ち着いた雰囲気であった。ただ、家庭的な生活感が乏しいような印象であった。		生活感のある家庭的な雰囲気作りについて検討されることを期待します。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	パンフレットにも馴染みの家具などの持込が好ましいことを明記し、家族に働きかけているが、なかなか理解されないとのことであった。お邪魔した2部屋と馴染みの家具などはあまりなかったが、それぞれが個性的で、居心地の良い部屋作りをしていた。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム 郷の家

記入担当者名 管理者 玉川 律子

評価結果に対する事業所の意見
なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について
意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。